NEC Express5800シリーズ Express5800/GT110a

3

ソフトウェア編

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

添付のDVD-ROMについて

添付のEXPRESSBUILDER® DVDには、本装置を容易にセットアップするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、本装置の機能をより多く引き出すことができます。

「EXPRESSBUILDER」DVDは、本装置の設定が完了した後でも、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用する機会があります。紛失しないように大切に保存しておいてください。

オプションのRAIDコントローラ（N8103-109/116A/117A）を利用してRAIDシステムの設定をするRAIDユーティリティはRAIDコントローラ上のチップに搭載されています。これらのユーティリティの操作方法については、オプションのRAIDコントローラに添付の説明書を参照してください。

CD-ROM装置のみの管理PCを使用したいとき

EXPRESSBUILDERはDVDにて提供しているため、DVDが読み込める装置のあるコンピュータでないと各種ソフトウェアのインストールをすることができません。CD-ROM装置のみのクライアントマシンへソフトウェアをインストールしたい場合は、次のような手順にて、いったんCD-R等へコピーしてから使用してください。

本手順は、クライアントへソフトウェアをインストールする目的に限り、CD 1枚分のみコピーすることができます。

1. 本装置など、DVDが読み込める装置へ「EXPRESSBUILDER」DVDをセットする。
2. オートランメニューが起動した場合は終了させる。
3. エクスプローラから、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納された以下のファイル・フォルダをハードディスクドライブへコピーする。

```
¥(ルートフォルダ)
¦
+--- ¥011 : version.xmlをコピー
      ¦
      +---- ¥ar_menu 以下すべて
      ¦
      +---- ¥doc以下すべて
      ¦
      +---- ¥win以下すべて
```

4. 手順3にてコピーしたファイル・フォルダをそのままのフォルダ構造にてCD-Rへコピーする。

   コピーするときは、ルートフォルダを一致させてください。
5. CD-Rへのコピーが完了したら、手順3にてコピーしたハードディスクドライブ上のファイル・フォルダはすべて削除する。
6. 手順4で作成したCD-RをクライアントマシンのCD-ROM装置へセットする。
7. エクスプローラから、CD内の以下のファイルを実行する。

   ¥011¥ar_menu¥autorun_menu.exe (32bitエディションの場合)
   autorun_menu_x64.exe (64bitエディションの場合)

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、OSのインストール、装置のメンテナンスなどをするためのソフトウェアです。EXPRESSBUILDERからOSをインストールする際には、インストール対象のハードディスクドライブ（またはRAIDシステムの論理ドライブ1台のみ）だけを接続してセットアップしてください。

各メニューの起動について

「EXPRESSBUILDER」DVDを本装置の光ディスクドライブにセットして起動すると、以下のようなメニューが起動します。

```
Boot selection

Os installation***default***...............①
Tool menu(Normal mode)....................②
Tool menu(Redirection mode)...............③
```

① Os installation

本項目を選択すると、EXPRESSBUILDERトップメニューが表示されます。

本ツールは Configuration Toolであり、Windows PE 2.0を使用しています。72時間継続して使用すると自動的に再起動されますのでご注意ください。

このメニューから、OSインストールのための「シームレスセットアップ」（導入編参照）や、以下のような機能をキックすることができます。

a)　Windows用OEM-Diskを作成する
Windowsのマニュアルセットアップで必要となるOEM-Diskを作成します（導入編ーマニュアルセットアップ参照）。

b)　Linux用ドライバディスクを作成する
Linuxのインストール時に必要となるドライバディスクを作成します。Linux用ドライバディスクは、シームレスセットアップの途中で作成することもできます。

c)　Linux Recoveryパーティションを作成する(Linuxサービスセット用)
Linux Recoveryパーティションには、インストールディスクのISOフォーマットイメージファイル等、Linuxのシームレスセットアップで必要となるモジュールが格納されます。Linux Recoveryパーティションは、BTO(工場組み込み出荷)時のハードディスクドライブ内に予め作成(サイズは約5GB)されていますが、RAID再構築などでパーティションを新規作成する場合は、Linux Recoveryパーティションの作成が必要になります。なお、Linux Recoveryパーティションはシームレスセットアップの途中で作成することもできます。

ハードディスクドライブの接続やRAIDシステム構成を確認し、正しく認識されている状態でLinux Recoveryパーティションを作成してください。

Linuxサービスセットについて

「Linuxサービスセット」は、Linux(ディストリビューション)とサポートサービスなどを組み合わせ、エンタープライズシステムでLinuxをより安心してお使いいただけるようにする製品です。システムの運用性・信頼性向上とシステム管理者の負荷軽減の実現のために、下記の各種機能やサービスを提供しています

ー　設定時や障害時の問題解決を支援するサポートサービス
ー　導入時の作業時間を大幅に削減するBTOインストール出荷
ー　出荷対象の全てのOS・サーバモデルで実機での動作評価を実施し、安心して運用していただける環境を提供
ー　製品出荷後に公開された新しいカーネルについても評価情報・アップデート手順を提供
ー　障害の発生や予兆を早期に発見可能なサーバ稼動監視ツールを提供

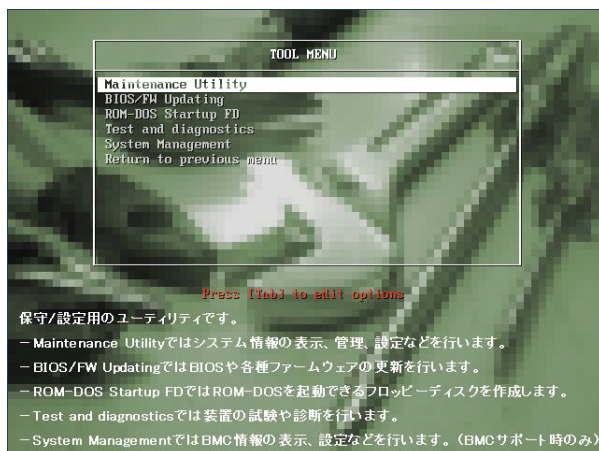
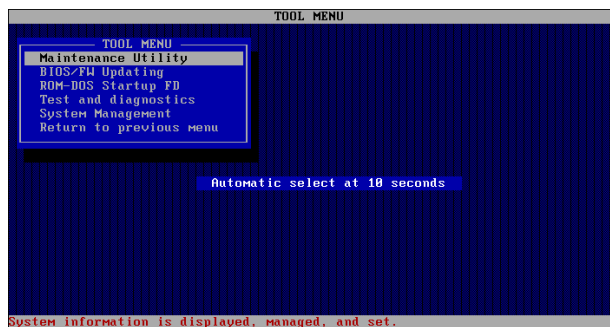
「Linuxサービスセット」の詳細については、以下のWebサイトをご覧ください。

http://www.nec.co.jp/linux/linux-os/

e)　RAIDのコンフィグレーション情報をセーブ／ロードする
RAIDコントローラ上のRAIDコンフィグレーション情報を保存したり、復元したりすることができます。

f)　EXPRESSBUILDERにドライバをロードする
通常は使用しません。オプション製品を追加した場合に使うときがあります(導入編ー応用セットアップ参照)。

② Tool menu(Normal mode)

本項目を選択すると、表示言語の選択の後、ツールメニューが起動します。

このメニューから、以下のような保守／設定用の機能をキックすることができます。
各機能の詳細については、運用・保守編の保守ツールの章を参照してください。

a) Maintenance Utility
オフライン保守ユーティリティを起動します。

b) BIOS/FW Updating
システムBIOSをアップデートします。

c) ROM-DOS Startup FD
ROM-DOS起動FDを作成します。

d) Test and diagnostics
システム診断を起動します。

e) System Management
本装置ではサポート対象外の機能です。

③ Tool menu(Redirection mode)

本項目は、BIOSコンソールリダイレクション機能を使用して、コンソールレスにて操作する場合にのみ選択してください。

このメニューから起動できる機能は、②のメニューから起動できるものと同等です。

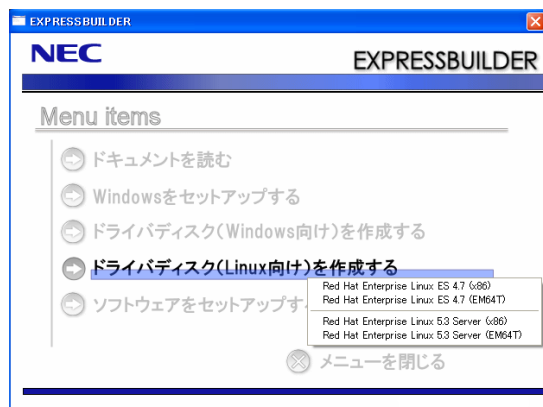
オートランで起動するメニュー

Windows2000+IE6.0、WindowsXP、Vistaまたは Windows Server 2003 が動作しているコンピュータ上で添付の「EXPRESSBUILDER」DVD をセットすると、オートラン機能により自動的にメニューが起動します。

セットしたタイミングによっては、自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、いったんドライブからEXPRESSBUILDERをイジェクトし、再度セットしてください。また、メニューを再表示させたいときは、エクスプローラから「マイコンピュータ」を選択し、EXPRESSBUILDERをセットしたドライブのアイコンをダブルクリックしてください。

メニューからは、Windows上で動作する各種バンドルソフトウェアのインストールやオンラインドキュメントを参照することができます。

オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAdobe Readerがインストールされている必要があります。Adobe Reader がインストールされていないときは、あらかじめAdobeシステム社のインターネットサイトよりAdobe Readerをインストールしておいてください。

メニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックして現れるショートカットメニューを使用してください。また、一部のメニュー項目は、メニューが動作しているシステム・権限で実行できないとき、グレイアウト表示され選択できません。適切なシステム・権限で実行してください。

DVDを光ディスクドライブから取り出す前に、メニューおよびメニューから起動したオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

ドライバディスク(Linux向け)の作成

以下の手順で、オートランで起動するメニューからドライバディスク(Linux向け)を作成することができます。

1. 1.44MBフォーマット済みの3.5インチ空きフロッピーディスクを1枚用意する。
2. オペレーティングシステムを起動する。
3. 「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブにセットする。

   メニューが起動します。
4. [ドライバディスク(Linux向け)を作成する] をクリックし、ディストリビューションを選択する。

右クリックで現れるメニューでも同様の操作ができます。

5. メッセージに従ってフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、[OK]をクリックする。

手順4で選択したディストリビューション用のドライバディスクが作成されます。作成したドライバディスクはライトプロテクトをかけて、ラベルを貼って大切に保管してください。

ExpressPicnic

「ExpressPicnic®」は、EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで使用する「パラメータファイル」を作成するツールです。
EXPRESSBUILDER とExpressPicnic で作成したパラメータファイルを使ってセットアップをすると、いくつかの確認のためのキー入力を除きOS のインストールから各種ユーティリティのインストールまでのセットアップを自動で行えます。また、再インストールのときに前回と同じ設定でインストールすることができます。「パラメータファイル」を作成して、EXPRESSBUILDER からセットアップすることをお勧めします。
フロッピーディスクをご使用の場合は、別途USB フロッピーディスクドライブをご用意ください。

Windows Server 2008, Windows Server 2003用の「パラメータファイル」が作成できます。

「パラメータファイル」がなくてもシームレスセットアップは可能です。また、「パラメータファイルの入ったFD 」は、EXPRESSBUILDER を使ったセットアップの途中で作成または修正することもできます。

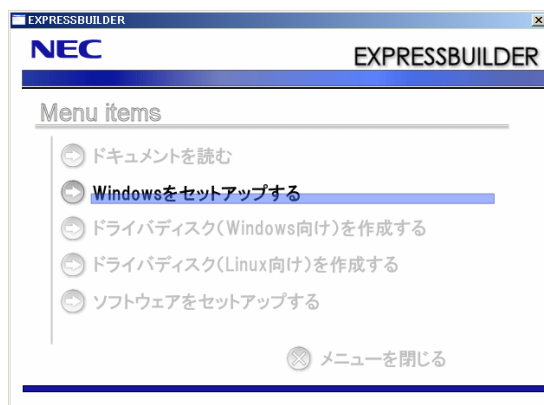
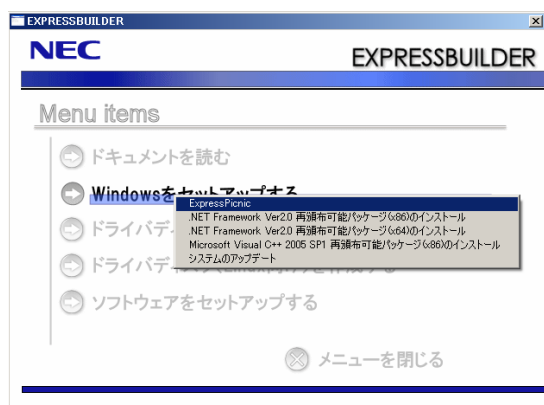
パラメータファイルの作成

OSをインストールするために必要なセットアップ情報を設定し、「パラメータファイル」を作成します。以下の手順に従ってください。

パラメータファイルの作成中は、絶対に[EXPRESSBUILDER]DVDをドライブから取り出さないでください。

- ExpressPicnicはPC98-NXシリーズ・PC-9800シリーズ・PC-AT互換機で動作します。
- ExpressPicnicは次のOS上で動作します。
  - Windows Server 2008（ユーザアカウント制御（UAC）は無効にしてください)
  - Windows Server 2003 x64 Editions, Windows Server 2003
  - Windows Vista（ユーザアカウント制御（UAC）は無効にしてください）
  - Windows XP x64 Edition, Windows XP

1. OSを起動する。
2. 添付の「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブにセットする。

3. 画面上で右クリックするか、[Windowsをセットアップする]を左クリックする。

4. [ExpressPicnic]をクリックする。

ExpressPicnic が起動します。

5. パラメータのロード画面が表示されたら、[パラメータをロードしない] のチェックボックスがオンになっていることを確認し[次へ]をクリックする。

6. インストールするOSを選択する。

[Windows(32bitエディション)をインストールする]または[Windows(64bitエディション)をインストールする]を選択し、[次へ]をクリックしてください。

7. RAID の設定をする。

［RAID の設定］ 画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから ［次へ］ をクリックしてください。

ExpressPicnicでは、[接続されている全物理デバイスの台数]はRAIDコントローラがサポートしている上限値になっています。「論理ドライブを作成する物理デバイスの台数」と「ホットスペアに指定される物理デバイスの台数」の合計が、「対象装置に接続されている全物理デバイスの台数」を超えないように注意してください。

論理ドライブの作成には、同型番の論理デバイスしか使用できません。

8. メディアとパーティションの設定をする。

   [メディアとパーティションの設定]画面が表示されます。

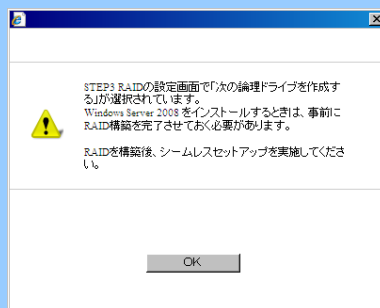
   「Windowsファミリ/エディション」で、インストールするエディションおよび、インストールの種類(フルインストール/ServerCoreインストール)を選択後、設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから[次へ]をクリックしてください。

   [Windows Server 2008 の場合]

   [Windows Server 2003 の場合]

- Windows Server 2003 R2をご使用の場合は、シームレスセットアップでサービスパックを適用しないでください。
  サービスパックを適用する場合は、シームレスセットアップ完了後、Windows Server 2003 R2 DISC 2を適用してから「システムのアップデート」にてサービスパックを適用してください。
- パーティションサイズについて
  - OS をインストールするパーティションは、必要最小限以上のサイズを指定してください（27ページ、65ページ参照）。
  - 接続されているハードディスク以上の容量は指定しないでください。
  - RAID構成で2,097,144MB以上の論理ドライブは作成できません。
- 「Windows システムドライブの設定」で「新規に作成する」を選択したとき、ディスクの内容はすべてクリアされますのでご注意ください。
- 「Windows システムドライブの設定」で「既存のパーティションを使用する」を選択すると、最初のパーティションの情報はフォーマットされ、すべてなくなります。それ以外のパーティションの情報は保持されます。下図は、情報が削除されるパーティションを示しています。

第1パーティション	第2パーティション	第3パーティション
削除	保持	保持

- ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブの既存のパーティションを残したまま再インストールすることはできません。「Windows システムドライブの設定」で「既存のパーティションを使用する」を選択しないでください。
- [RAIDの設定]画面で 新しくRAID を構築し、Windows Server 2008 (32ビット エディション)を選択すると次のメッセージが表示されます。

シームレスセットアップを実行する前にRAIDを構築してください。

9. 基本情報の設定をする。

[基本情報の設定] 画面が表示されます。ユーザ情報を入力して [次へ] をクリックしてください。

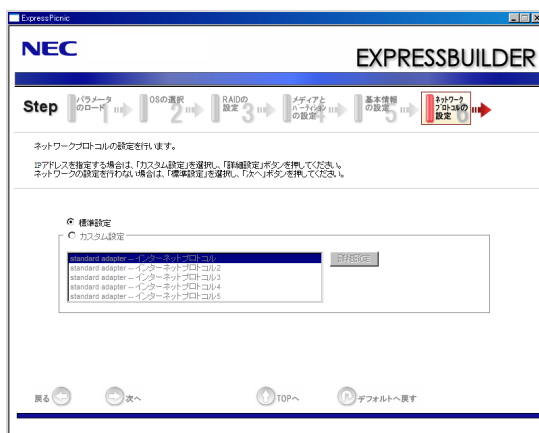
[Windows Server 2008 の場合]

[Windows Server 2003 の場合]

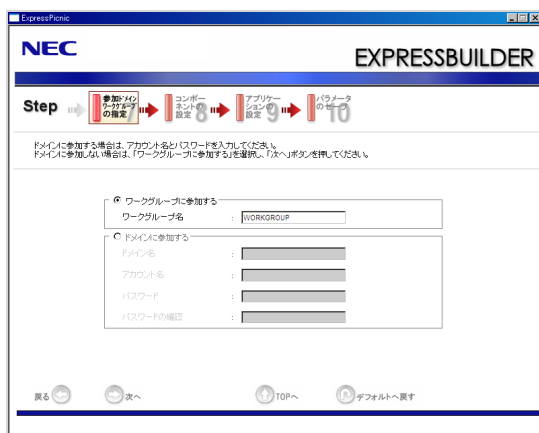
- **Windows Server 2003の場合、コンピュータ名および使用者名の入力は必須です。**
- **Windows Server 2008の場合、コンピュータ名および、次の条件を満たす Administratorパスワードの入力は必須です。**
  - **6文字以上(半角)以上**
  - **数字/英大文字/英小文字/記号のいずれか3つ以上を含む**

- パラメータファイルをロードした場合や、Step6以降の画面からStep5に画面を戻した場合、「Administratorパスワード」および「Administratorパスワードの確認」に値を設定していない場合でも「●●●●●●」が表示されます。
- Windows Server 2008の場合、使用者名は「Administrator」固定です。

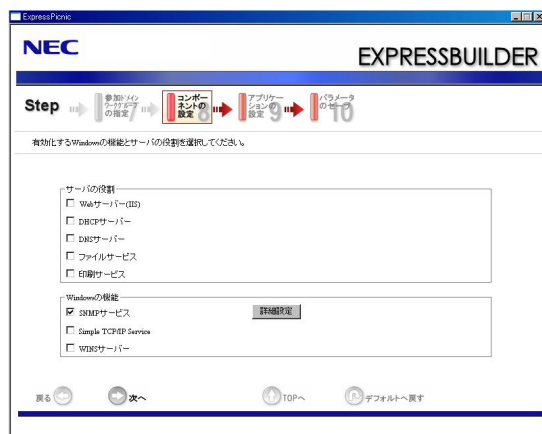
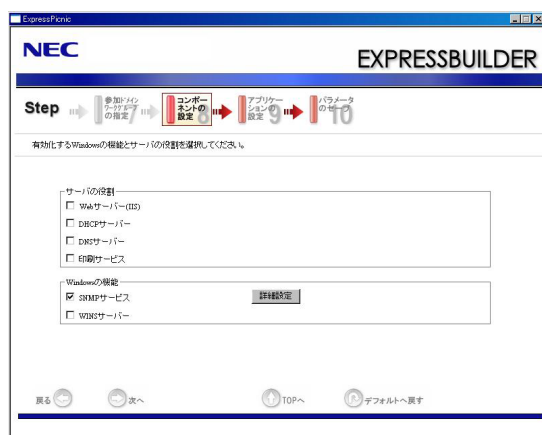
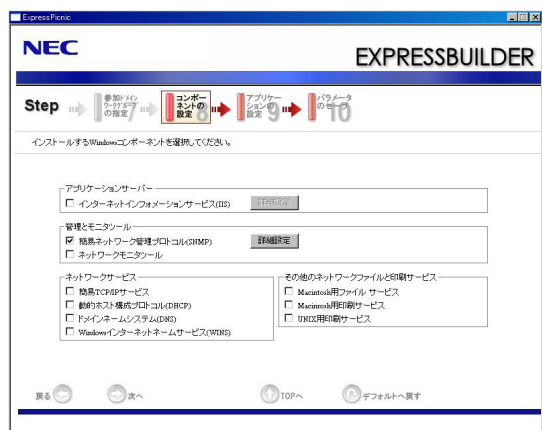
10. ネットワークプロトコルの設定をする。

［ネットワークプロトコルの設定］画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから［次へ］をクリックしてください。

カスタム設定での登録順は、LAN ポートの番号と一致しない場合があります。

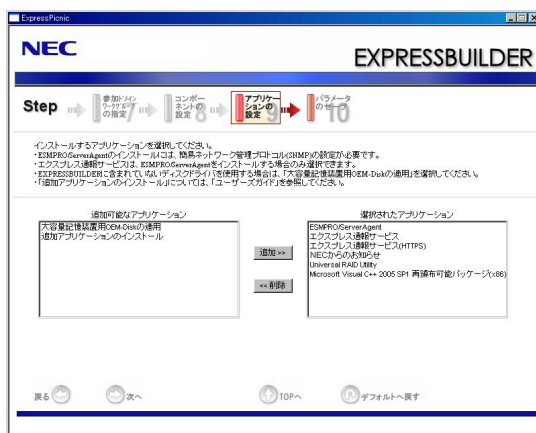
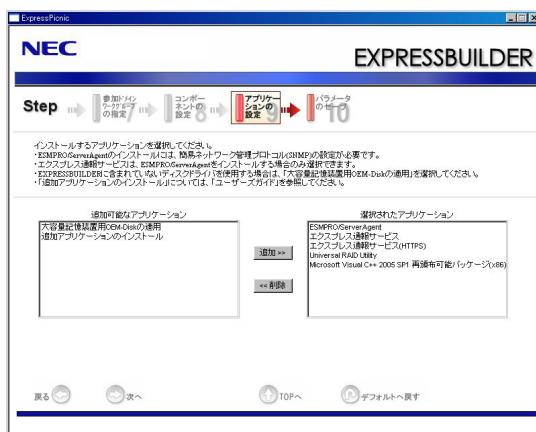
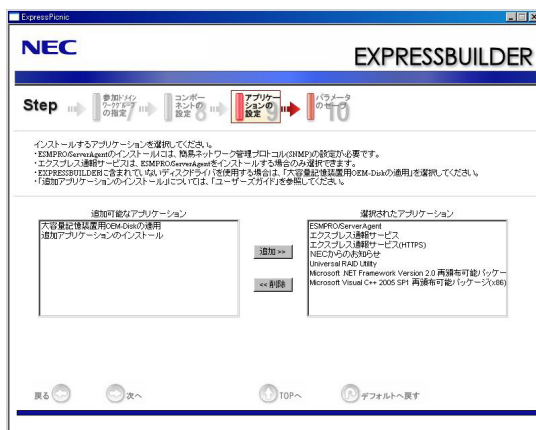
11. 参加ドメイン・ワークグループを指定する。

［参加ドメイン・ワークグループの指定］画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから［次へ］をクリックしてください。

12. コンポーネントの設定をする。

［コンポーネントの設定］画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なら修正を行ってから［次へ］をクリックしてください。

[Windows Server 2008(フルインストール)の場合]

[Windows Server 2008(ServerCoreインストール)の場合]

[Windows Server 2003の場合]

13. アプリケーションの設定をする。

［アプリケーションの設定］画面が表示されます。設定内容を確認し、必要なアプリケーションを選択して［次へ］をクリックしてください。

[Windows Server 2008（フルインストール）の場合]

[Windows Server 2008（ServerCoreインストール）の場合]

[Windows Server 2003の場合]

- 「エクスプレス通報サービス（HTTPS)」について
  - Windows Server 2008をご使用の場合
    「エクスプレス通報サービス（HTTPS)」をサポートしています。
  - Windows Server 2003 R2をご使用の場合
    「エクスプレス通報サービス（HTTPS)」をサポートしています。
  - Windows Server 2003をご使用の場合
    「エクスプレス通報サービス（HTTPS)」をサポートしていません。[追加可能なアプリケーション］へ移動させてください。

    [手順]
    (1) ［選択されたアプリケーション］から「エクスプレス通報サービス（HTTPS)」を選択する。
    (2) ［<<削除］をクリックする。
    (3) ［追加可能なアプリケーション］に移動したことを確認する。

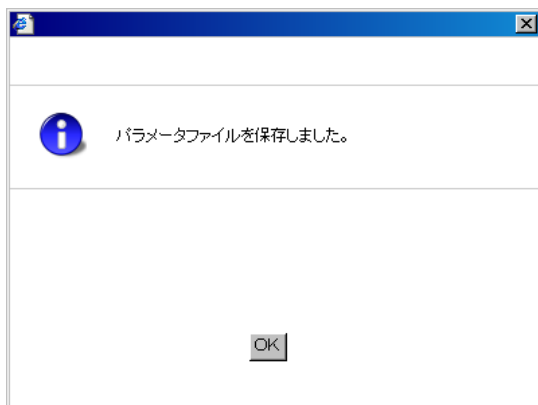
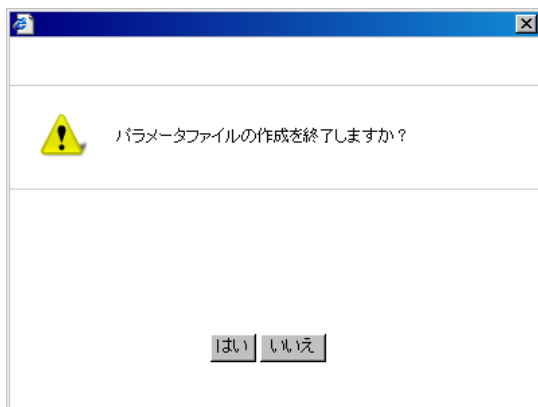
    インストールされた場合は、「エクスプレス通報サービス／エクスプレス通報サービス（HTTPS）インストレーションガイド」を参照し、「エクスプレス通報サービス（HTTPS)」を削除してください。

- 「追加アプリケーションのインストール」について

  「追加アプリケーションのインストール」とは、シームレスセットアップの最後にあらかじめ指定された任意のアプリケーションを自動でインストールする機能です。
  詳細については、「 http://www.nec.co.jp/expicnic/ 」の[FAQ] - シリーズを選択 - 対応するバージョンの[重要]を選択 -[追加アプリケーションのインストール]を参照してください。

- 情報提供ツール「NEC からのお知らせ」について
  - インストールメディアの設定において、以下のエディションを選択した場合にのみ、表示されます。
    - Windows Server 2008 Standard（フルインストール）(日本語)
    - Windows Server 2008 Standard x64（フルインストール）(日本語)
    - Windows Server 2003 Standard Edition (日本語)

    これ以外のファミリやエディションでは、インストールされません。
  - 情報提供ツール「NEC からのお知らせ」をインストールしない場合、[選択されたアプリケーション］の「NEC からのお知らせ」を選択し［<<削除］をクリックし、[追加可能なアプリケーション］に移動していることを確認してください。シームレスセットアップ後、情報提供ツール「NEC からのお知らせ」をインストールする場合は「システムのアップデート」でインストールしてください。
  - 情報提供ツール「NEC からのお知らせ」についての詳細は、本書「情報提供ツール「NECからのお知らせ」(279ページ)」をご覧ください。

14. パラメータをセーブする。

［パラメータのセーブ］画面が表示されます。
「パラメータをセーブする」を選択し、フォーマット済みフロッピーディスクをセットした後、パラメータファイルのパスをボックスへ入力し、［次へ］をクリックします。

パラメータファイルのパス、およびファイル名に日本語は使用しないでください。

15. フロッピーディスクに保存する。

「パラメータファイルの入ったFD 」が作成できました。
[はい]をクリックし、パラメータファイルの作成を終了してください。

- 既存の情報ファイル（パラメータファイル）を修正する場合は、[パラメータのロード]画面で、パラメータをロードするをクリックしてください。ヘルプを参照して情報ファイルを修正してください。
- 途中で終了する場合は、画面右上の［☒］をクリックしてください。

装置用バンドルソフトウェア

装置にバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）は本装置にインストールする本体監視用アプリケーションです。
EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。

運用上の注意事項については、添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent（Windows版）インストレーションガイド」に記載しています。ご覧ください。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）を動作させるためには対象OSのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

- **ネットワークサービスの設定**

  プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

- **SNMPサービスの設定**

  コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。
  ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「*」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

インストール

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）のインストールは添付の「EXPRESSBUILDER」DVD を使用します。本装置のOSが起動した後、Autorunで表示されるメニューから［ソフトウェアをセットアップする］－［ESMPRO］－［ESMPRO/ServerAgent］の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。

Administrator権限を持つユーザでログオンしてください。

ネットワーク上の光ディスクドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。

アップデートインストールについて
ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

「ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。」

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgentをインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. 本装置を再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgentの監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。

   エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめからインストールし直してください。

Universal RAID Utility

Universal RAID Utilityは、以下のRAID コントローラの管理、監視を行うアプリケーションです。

- オンボードのRAIDコントローラ（LSI Embedded MegaRAID™）
- N8103-109 RAIDコントローラ(128MB, RAID 0/1/5/6)
- N8103-116A RAIDコントローラ(128MB, RAID 0/1)
- N8103-117A RAIDコントローラ(128MB, RAID 0/1/5/6)

Universal RAID Utilityのインストールおよび操作方法、機能については、添付のEXPRESSBUILDERに収録している「Universal RAID Utility Ver2.0 ユーザーズガイド」を参照してください。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

装置のモデルにより、あらかじめ Universal RAID Utility がインストールされている場合があります。

シームレスセットアップを使用したセットアップ

Universal RAID Utilityは、EXPRESSBUILDERに収録している「シームレスセットアップ」を使用してセットアップできます。シームレスセットアップのセットアップするアプリケーションの選択で、[Universal RAID Utility] を選択してください。

Universal RAID Utilityのセットアッププログラムを使用したセットアップ

- **Windowsの場合**

  [オートランメニュー] でUniversal RAID Utilityのセットアッププログラムを起動できます。
  [オートランメニュー] で [ソフトウェアをセットアップする]、[Universal RAID Utility] をクリックします。
  なお、Windowsの場合、下記のランタイムコンポーネントが必要です。

  - Microsoft .NET Framework 2.0
  - Microsoft .NET Framework 2.0 日本語 Language Pack
  - Microsoft Visual C++ 2005 SP1 ライブラリ

  この3つのソフトウェアは、[オートランメニュー]でインストールできます。

  [Microsoft .NET Framework 2.0]と[Microsoft .NET Framework2.0 日本語 Language Pack] をインストールするには、[オートランメニュー] で [Windowsをセットアップする]、[.NET Framework Ver2.0再配布可能パッケージ(x86)のインストール] (x64の場合、[.NET Framework Ver2.0 再配布可能パッケージ(x64)のインストール]をクリックします。

［Microsoft Visual C++ 2005 SP1 ライブラリのランタイムコンポーネント］をインストールするには、［オートランメニュー］で［Windowsをセットアップする］、［Microsoft Visual C++ 2005SP1 再配布可能パッケージ(x86)のインストール］(CPUアーキテクチャに関わらず、(x86)を使用します)をクリックします。

ネットワーク経由での管理

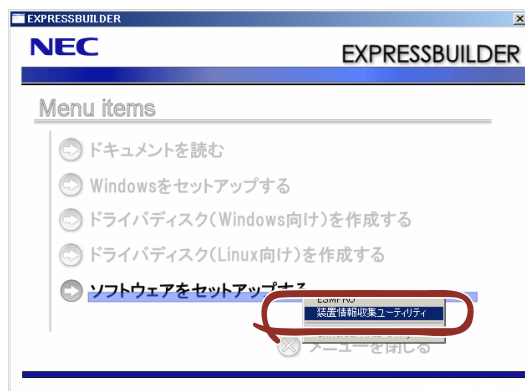
Universal RAID Utilityは、管理対象RAIDコントローラを搭載するコンピュータをネットワーク経由で管理する機能をサポートしていません。ネットワーク経由で管理するには、Windowsのリモートデスクトップなど、リモートコンソール機能を使用してください。

イージーコンフィグレーション機能

Universal RAID Utilityの「イージーコンフィグレーション」機能は、LSI Embedded MegaRAIDでは使用できません。

RAIDレベル6の論理ドライブの作成

Universal RAID Utilityでは、RAIDレベル6の論理ドライブを作成するには、4台以上の物理デバイスが必要です。3台の物理デバイスでRAIDレベル6の論理ドライブを作成するには、WebBIOSを使用してください。
ハードディスクドライブ3台でRAID6を構成する（データx1 + パリティ x2）機能は一般的ではないため、4台以上での構成を推奨します。

装置情報収集ユーティリティ

装置情報収集ユーティリティは本装置にインストールするソフトウェアです。保守時や障害時などにサーバの各種情報を採取することができます。「EXPRESSBUILDER」DVDからインストールすることができます。

インストール

ここでは、個別にインストールする場合の手順を説明します。

1. OSが起動した後、「EXPRESSBUILDER」DVDを光ディスクドライブに挿入する。
2. Autorunで表示されるメニューから［ソフトウェアをセットアップする］－［装置情報収集ユーティリティ］の順にクリックする。

   本ユーティリティのインストールを開始します(システムドライブ:¥ezclctフォルダにインストールされます)。

- 管理者権限のあるアカウント(administrator)でシステムにログインしてください。
- インストール先ハードディスクドライブの空き容量が「2.5GB」以上必要です。

使用方法

システムドライブ:¥ezclct¥stdclctフォルダ配下のcollect.exeを実行してください。
上記フォルダ配下にlogフォルダが作成され、本装置の各種情報が圧縮ファイル(zip形式)で格納されます。

アンインストール

システムドライブ:¥ezclct¥ez_uninst.batを実行してください。

情報提供ツール「NECからのお知らせ」

情報提供ツール「NECからのお知らせ」は、購入された装置をご利用いただくうえで役立つ情報を提供するツールです。

本ツールは、以下のエディションに対してのみインストールされます。

－ Windows Server 2008 Standard（フルインストール）(日本語)
－ Windows Server 2003 Standard Edition (日本語)

これ以外のファミリやエディションでは、インストールされません。

カスタムインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時に情報提供ツール「NECからのお知らせ」があらかじめインストールされている場合があります。

シームレスセットアップを使ったセットアップ

情報提供ツール「NECからのお知らせ」は、添付の「EXPRESSBUILDER」DVDに収められている自動インストールツール「シームレスセットアップ」を使ってインストールできます。

手動インストール(新規インストール)

手動で情報提供ツール「NECからのお知らせ」をインストールする場合は、「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「Windows Server 2003 インストレーションサプリメントガイド」を参照し、「システムのアップデート」を適用してください。

情報提供ツール「NECからのお知らせ」のアンインストール手順

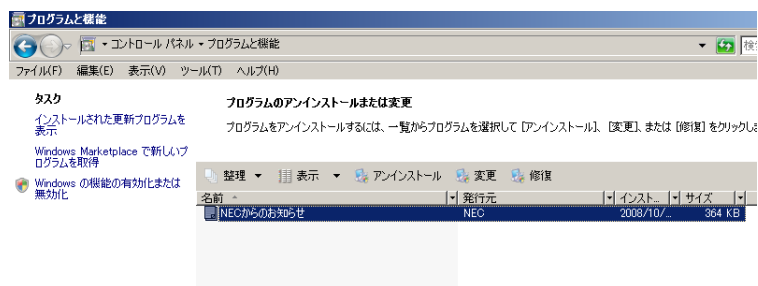
情報提供ツール「NECからのお知らせ」をアンインストールする場合は、次の手順にしたがってください。

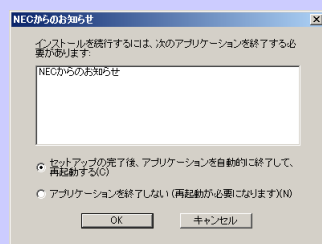
＜Windows Server 2008の場合＞

1. [プログラムと機能]画面を表示する。

   <標準のスタートメニューの手順>
   スタートメニューから[コントロールパネル]をポイントし、[プログラムと機能]をクリックする。

   <クラシックスタートメニューモードの手順>
   スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]から[プログラムと機能]をクリックする。

2. [プログラムのアンインストールまたは変更]一覧から情報提供ツール[NECからのお知らせ]をダブルクリックする。

アンインストールが開始されます。

次のメッセージが表示される場合がありますが、[OK] をクリックしてください。

3. [プログラムと機能] 画面の [プログラムのアンインストールまたは変更] 一覧から、情報提供ツール「NECからのお知らせ」が削除されていることを確認後、システムを再起動する。

続いて、[お気に入り] から [NECからのお知らせ] を削除します。

4. [Internet Explorer] 上にて<Alt>キーを押してツールバーを表示し、[お気に入り] から [お気に入りの整理] を選択する。

「お気に入りの整理」ウィンドウが開きます。

5. 項目から「NEC」フォルダを選択する。

NECフォルダに登録されているWebサイト一覧が表示されます。

6. [NECからのお知らせ]を選択し、[削除]をクリックする。

「ファイルの削除」の確認ウィンドウが開きますので、[はい]をクリックして削除してください。

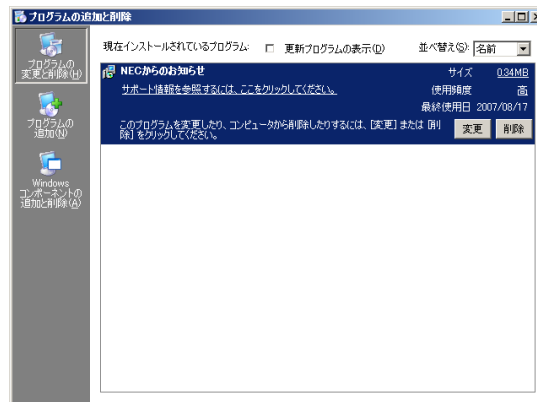
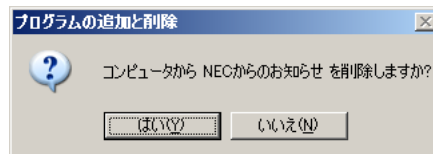
以上で、情報提供ツール「NECからのお知らせ」のアンインストールは完了です。

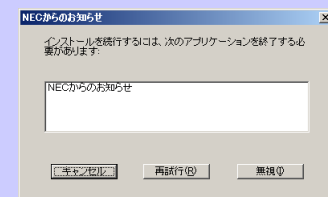
＜Windows Server 2003の場合＞

1. [プログラムの追加と削除]画面を表示する。

<標準のスタートメニューの手順>
スタートメニューから[コントロールパネル]をポイントし、[プログラムの追加と削除]をクリックする。

<クラシックスタートメニューモードの手順>
スタートメニューから[設定]をポイントし、[コントロールパネル]から[プログラムの追加と削除]をクリックする。

2. [現在インストールされているプログラム]一覧から情報提供ツール[NECからのお知らせ]を選択し、[削除]をクリックする。

3. 次のメッセージが表示されたら、[はい] をクリックする。

アンインストールが開始されます。

次のメッセージが表示される場合がありますが、[無視] をクリックしてください。

4. [プログラムの追加と削除] 画面の [現在インストールされているプログラム] 一覧から、情報提供ツール「NECからのお知らせ」が削除されていることを確認後、システムを再起動する。

続いて、[お気に入り] から [NECからのお知らせ] を削除します。

5. ［エクスプローラ］上にてツールメニューの[お気に入り]から[お気に入りの整理]をクリックする。

   「お気に入りの整理」ウィンドウが開きます。

6. 項目から「NEC」フォルダを選択する。

   NECフォルダに登録されているWebサイト一覧が表示されます。

7. [NECからのお知らせ]を選択して、[削除]をクリックする。

   「ファイルの削除の確認」ウィンドウが開きますので、[はい]をクリックして削除してください。

以上で、情報提供ツール「NECからのお知らせ」のアンインストールは完了です。

エクスプレス通報サービス／エクスプレス通報サービス（HTTPS）

エクスプレス通報サービス／エクスプレス通報サービス（HTTPS）に登録することにより、システムに発生する障害情報（予防保守情報含む）を電子メールやモデム経由で保守センターに自動通報することができます。
本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知することや、障害発生時に迅速に保守を行うことができます。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービス／エクスプレス通報サービス（HTTPS）を有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **装置のハードウェアメンテナンスサービスの契約、またはエクスプレス通報サービス／エクスプレス通報サービス（HTTPS）の契約**

  装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービス／エクスプレス通報サービス（HTTPS）のみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービス／エクスプレス通報サービス（HTTPS）はご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **開局にあたって**

  エクスプレス通報サービス／エクスプレス通報サービス（HTTPS）を開局する際には、ご契約毎のご契約情報を記録した「エクスプレス通報サービス／エクスプレス通報サービス（HTTPS）開局キーファイル」を、通報対象の装置に適用する必要があります。
  「エクスプレス通報サービス／エクスプレス通報サービス（HTTPS）開局キーファイル」は、弊社での開局準備ができ次第、エクスプレス受付センターから提供致します。ファイルの提供とその適用方法には、以下の2通りの方法があります。

  1. ネットワーク経由でダウンロード

     エクスプレス通報サービス／エクスプレス通報サービス（HTTPS）をNECサポートパック登録ホームページ、またはお客様登録のWebサイトからお申し込みの場合、お申し込みの手続きを実施いただき、弊社での開局準備完了後、「エクスプレス通報サービス／エクスプレス通報サービス（HTTPS）開局キーファイル」をダウンロードできます。ダウンロード後、インストレーションガイドに従い、「エクスプレス通報サービス／エクスプレス通報サービス（HTTPS）開局キーファイル」を設定してください。

2. 通報サービスの通報開局FD

エクスプレス通報サービス／エクスプレス通報サービス（HTTPS）を製品同梱の申込用紙、または契約書で申し込みされた場合、お申し込み内容を確認し、弊社での開局準備完了後、エクスプレス受付センターより、「エクスプレス通報サービス／エクスプレス通報サービス（HTTPS）開局キーファイル」を格納した「通報開局FD」を送付いたします。お申し込み手続き後しばらくお待ちください。「通報開局FD」到着後、インストレーションガイドに従って設定してください。

内蔵フロッピーディスクドライブを搭載していない場合は、別途USBフロッピーディスクドライブをご用意ください。

管理PC用バンドルソフトウェア

装置をネットワーク上から管理するための「管理PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェアについて説明します。

ESMPRO/ServerManager

管理用 PC 上で ESMPRO/ServerManager を使用すると、本装置で動作する ESMPRO/ServerAgentにより、本装置を管理・監視することができます。
管理PC へのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。

ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付の「EXPRESSBUILDER」DVD 内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストレーションガイド」を参照してください。